

# 令和6年度いわき市病院事業報告書

## 1 概　　況

### (1) 総括事項

ア 当センターは、28の診療科を有し、病床数700床により、福島県浜通り地方の高度急性期医療を担う中核病院として安全で質の高い医療を提供しております。

イ 年間総延患者数は、入院が178,176人、外来が223,616人であり、前年度と比較し、入院は1,439人の増加、外来は1,590人の増加となりました。入院は主に血液内科、脳神経外科の患者が増加し、外来は主に循環器内科の患者が増加しました。

ウ 収益的収支は、収入が前年度に比べ3.1%増の254億6,343万4,433円を計上したものの、支出が前年度に比べ8.8%増の259億2,174万8,014円となり、▲4億5,831万3,581円の純損失を計上することとなりました。

(ア) 収益的収入は、紹介件数が増加するなど入院・外来いずれも患者数が増加したことでの、入院では手術料やDPC分、外来では注射料が増加となりました。これに伴い、医業収益は前年度に比べ5.9%増の210億9,273万8,806円となりました。

なお、患者一人一日当たりの収入は、入院が88,522円、外来が21,166円で、前年度に比べ、入院は4,202円の増、外来は1,047円の増となりました。

一方、医業外収益は、新型コロナウイルス感染症に係る補助制度の廃止に伴い病床確保料が皆減となるなど、前年度に比べ9.0%減の41億7,878万7,142円となりました。

(イ) 収益的支出は、福島県人事委員会勧告に基づく給与改定等を受け、給与費が大幅に増えたほか、患者数が増加したことでの手術件数が増となり材料費が増加しました。また、病院情報システムの更新に伴い減価償却費が増となったことなどにより、医業費用は前年度に比べ8.9%増の244億9,735万5,402円となりました。

エ 資本的収支は、保有現金の効果的な運用を目的に約15億円の債券運用を開始した一方、高額な医療機器等の整備完了で、企業債の借入れが減少しましたので、収入は前年度に比べ59.6%減の17億261万5,790円、支出は前年度に比べ20.7%減の42億6,841万563円となりました。

医療機器は、医療業務の向上を図るため、放射線科情報システムを更新したほか、X線画像読取装置やデジタルマンモグラフィなど76品目を6億5,549万5,522円で購入しました。

オ 医業収益は、新病院開院以降で最高の収益となりましたが、相次ぐ物価高騰の流れの中で、赤字決算となったことを踏まえ、今後は更なる財務体質の強化が必要となります。患者の確保はもとより、病院経営上の重要な部署である手術室の運用をいかに効率化するかなど、中長期的な視点で実現性を持った取り組みを進めて参ります。併せて、地域の中核病院として、地域完結型医療の確立を目指し、地域の医療機関との相互役割分担を推進するとともに、救急医療や周産期医療といった通常医療の充実を進めながら、良質な医療の提供と患者サービスの充実に努めて参ります。